

[長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。]

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《戸町・小ヶ倉・土井首地区》

第1回 開催報告



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。



日時 令和元年6月29日(土) 15:00~16:30

場所 小ヶ倉地区ふれあいセンター

参加者 地域の皆さん 30人

人口減少や少子高齢化が進む中であっても、暮らしやすいまちであり続けるために、戸町・小ヶ倉・土井首地区にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

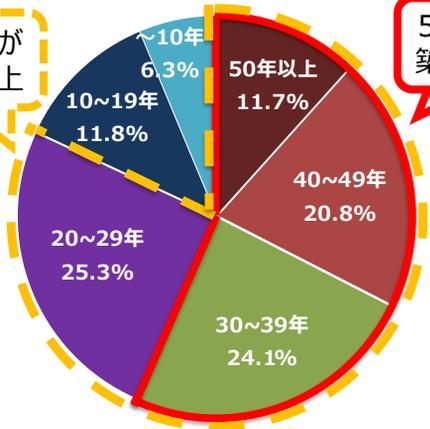
1 いま起きている“変化”と状況

公共施設が古くなってきています

- ・市の公共施設（建物）の半分以上が建築後30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・今後、修理や建替えの時期を一齐に迎えます。

＜施設の築年数と施設の量（床面積）の割合＞

81%以上が
築20年以上



56%以上が
築30年以上

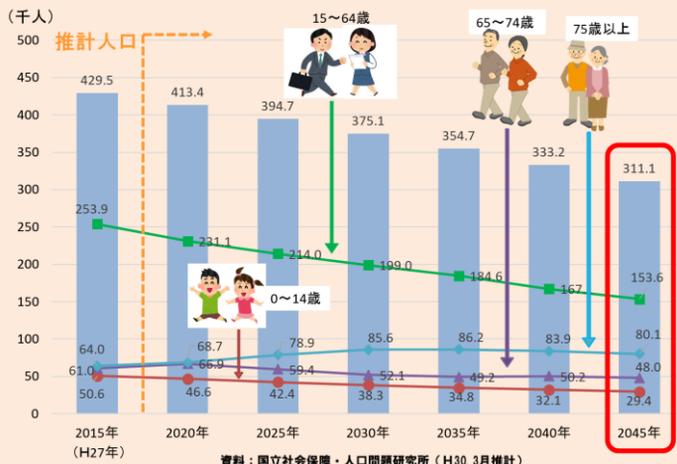
人口減少・少子高齢化が進んでいます

- ・長崎市の人口は、2045年には約31万人にまで減少すると予測され、それに伴い施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・「働く世代」の人口が大きく減少して**税収が減少**することが予想されます。
- ・今後も高齢化が進み、**福祉や医療にあてる費用が増える**ことが予想されます。
- ・このため、**公共施設の修理や建替えにあてる費用は限られてしまう**と考えられます。

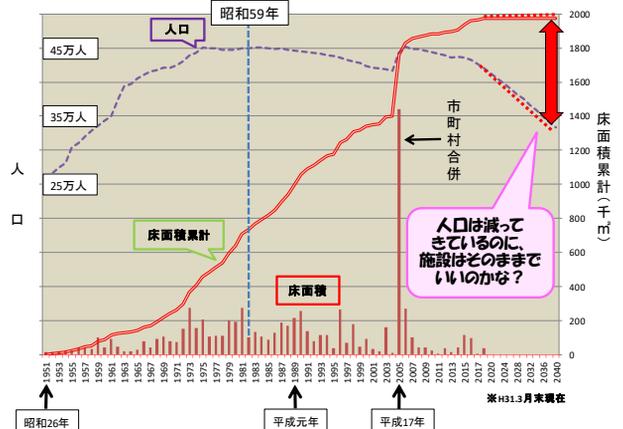
人口は減少しているのに、施設は多いまま

- ・長崎市の人口（紫の線）は、昭和59年をピークに減少していますが、**施設の量**（床面積、赤の線）は増え続けてきました。
- ・**今ある施設を全て持ち続けることが必要でしょうか？**

＜人口の将来予想＞



＜施設の床面積と人口の移り変わり＞



2 時代の変化に対応できる公共施設の見直し

長崎市から、「いま起きている“変化”と状況」として、なぜ公共施設のあり方を見直す必要があるのかお話ししました。

ところで…

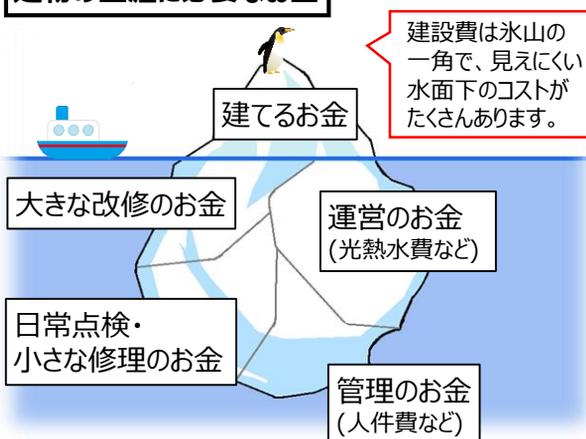
建物の生涯では、どんなお金がかかるかご存知ですか？

建物にかかるお金は、初めに建物を建てるお金だけではありません。建てた後も、建物の管理・運営のための光熱水費や人件費、安全のための日常点検・小さな修理のお金が必要になります。

また、建物の老朽化に伴い、定期的に大きな改修のお金もかかります。一般的に、建物を建てるお金の4～5倍のお金が、建てた後にかかるといわれています。

建物のあり方を考えるときには、**建物の生涯にかかるお金全体を考える必要があります。**

建物の生涯に必要なお金



公共施設を取り巻く時代の変化

長崎市の人口は、約30年後、約31万人にまで減少すると予測されているんだ。



人口減少

公共施設の
利用者の減少

なのに

公共施設の量は
そのまま

どうしたらいいのだろう？

人は減っていくのに、施設の量はそのままだと、使われない施設が増えちゃうね。

少子高齢化

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる

働く世代の人口が大きく減っていき、税収(市の収入)が減っていくよ。



市の施設の半分以上が、築30年以上で老朽化しているよ。これからますます修理の費用がかかるよ。

長崎市の公共施設の将来的な「**建て替え**」や「**改修**」にかかる費用平成27年度から**今後30年間**で、

不足額は… **879億円**

このままでは

今の施設すべての建替え・修理はできません



グループでの話し合い

「地区にある公共施設の課題や問題点等」について考えよう

○戸町・小ヶ倉・土井首地区の将来を考えるうえで、地区内にある公共施設の課題や問題点は何ですか。

○その理由は何ですか。

思い浮かんだ施設を、書き出してもらい、それぞれの施設について、班で話し合いました。

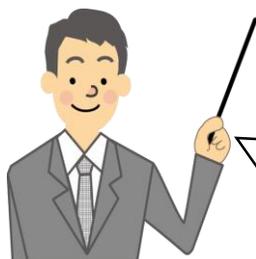


3 公共施設の上手な見直し方

長崎市から、どのように公共施設を見直していくかについて、お話ししました。

まず大切なことは…

**施設を見直すことは、
行政サービスを無くすことではありません。**



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を見直すということです。仮に施設が減っても、そこで行われていた生活に必要なサービスを無くすことではありません。

<工夫した使い方の例>



建物は減っても… サービスは残る

公共施設を見直す時の視点

公共施設の使い方を見直す時には、次の7つの視点で考えていきます。

建築年数や修理の状況	地震に強い建物か	使っていない部屋はないか	よく利用されているか	同じような使われかたをしている建物がないか	修理などにお金が掛かりすぎているか	バリアフリーに対応しているか
------------	----------	--------------	------------	-----------------------	-------------------	----------------

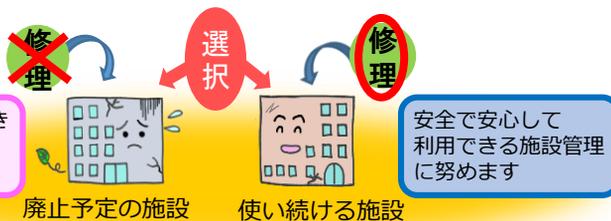
見直しの手法

見直しには、大きく2つの手法があります。

手法1 施設を選ぶ

使い続ける施設と将来廃止予定の施設を分けて、使い続ける期間に合わせた適切な修理をする

廃止予定なのに大きな修理をするのは、もったいないね！



手法2 施設をまとめる



● いっしょに使う ● ● 時間をやりくり ●



● 交流が活発に ● ● 活動は減らない ●

工夫することで建物が減っても活動は続けられ新たな交流も生まれます



★グループでの話し合いで出された主な意見

グループで話し合っていたいただいた内容について、班ごとに発表していただきました。

1班

- ・戸町地区ふれあいセンターは、手狭で駐車場も少なく、利用しにくい。そのため、コミュニティ活動の拠点にしたいとできない。
- ・新戸町の市営住宅は老朽化が進み、バリアフリー化もされておらず、高齢者には厳しい状況だ。
- ・新戸町の市営住宅の建替えのときに、コミュニティ施設との複合施設にしてはどうか。
- ・こどもがボール遊びをできる遊び場が欲しい。場所がないので、こどもの道路への飛び出しが危険である。

2班

- ・戸町地区ふれあいセンターは、駐車場が少なく集まりにくい。利用状況が良くない原因になっているのではないか。
- ・戸町小学校はかなり古くて敷地も狭く、高低差もあり、運動場も二つに分かれてしまっている。駐車場があまりなく、行事の準備などのときに集まりにくいので、駐車場がある戸町中学校を使っている。
- ・小ヶ倉プールとおみず荘を合わせて風呂にしてはどうか。
- ・大型スーパーの近くに公共施設があると便利だ。近くの施設との組み合わせも考える必要があるのではないか。

3班

- ・おみず荘を避難所として活用できないか。
- ・おみず荘は、風呂やそこでの活動を楽しみにしている高齢者がいるので、残してほしい。
- ・小ヶ倉プールは利用料金が安い。もう少し上げてもいいのではないか。
- ・放課後児童クラブおれんじキッズは、小ヶ倉小学校の校舎内に移転できないか。

4班

- ・建物を壊して新しく造るのではなく、今あるものを使うという発想が大事だ。
- ・ダイヤランドふれあいセンターは駐車場がたくさんあるので利用者が多い。駐車場の有無は公共施設を考えるうえで大切なのではないか。
- ・おみず荘は利用料金を取った方がいい。
- ・小ヶ倉プールは今のまま存続できないか。

5班

- ・今回の対話で地区にある施設を初めて知った。
- ・公共施設は、駐車場がないとなかなか活用できない。
- ・土井首児童館は、利用するこども達は多いが、手狭であり、伸び伸び遊べる屋内の施設がない。また、乳幼児が遊べる施設が少ない。
- ・しらゆり荘は高齢者だけでなくみんなで利用できれば、もっと活用率が高まるのではないか。
- ・南部市民センターは冷房代はもう少し安くならないか。

【講評】（アドバイザー：首都大学東京 讃岐 亮氏）

- 知らない公共施設が多いという意見は、率直な意見だと思います。とはいえ、必ずしもその施設のニーズがないというわけではありません。利用している人たちもいるのです。まずは「知る」ことが大切です。公開されている情報、利用者との交流などを通じて、施設について知り、理解した上で、情報を共有しながら議論することが大事です。
- 意見をひとつにまとめる必要はありません。公共施設のあり方やその利用の仕方について、色々な意見があるということを、みなさんと共有できる場にしてほしいと思います。

次回の対話では・・・

長崎市から **公共施設の基本的な配置の考え方** をお示したうえで、その考え方に対して、地域にお住まいだからこそわかる実情などを踏まえた、ご意見やアイデア等をお聞かせいただきたいと思っております。

日時：令和元年8月18日（日）15:00～17:00
場所：小ヶ倉地区ふれあいセンター 第1研修室

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）